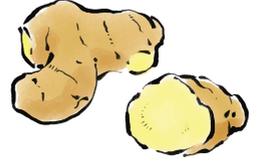


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

「独特な辛みと香りが特徴！」 世界中で薬味や香辛料として親しまれる～ショウガ～

ショウガは薬味や香味などに使われるほか、血行を促進し体を温める効果があり、冷え性に悩む女性を中心に人気の野菜です。生育ごとに、「葉ショウガ」(葉6～7枚時)、「根ショウガ」(新ショウガ)、貯蔵して辛みを引き出した「ひねショウガ」があります。



栽培カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ショウガ	●	●	▲	★	★		■	■
	—		—		—		—	
			敷きわら		葉ショウガ収穫			

● 植え付け

■ 収穫

栽培のポイント

- 乾燥に弱いので、晴れが続く場合は2～3日に1回を目安に水やりをします。特に梅雨明け後は水切れしやすいので、株元に敷きわらを敷くと湿度を保つことができます。
- 種ショウガは、発泡スチロールなどのトロ箱で芽出しをしておくと、植え付け後の生育が早まります。
- 日当たりは必要ですが強い光は嫌うため、適度な日影ができる場所に植え付けましょう。
- 連作障害を避けるために、同じ場所での作付けは2～3年栽培期間を空けましょう。

畑の準備

植え付けの2週間前に苦土石灰100g/m²を施用して、深さ30cm位までよく耕します。
植え付けの1週間前には化成肥料(N:P:K=8-8-8)100g/m²を施しよく耕します。

栽植密度

畝幅60～70cm、高さ10cmの畝を立て、株間30～60cmの1条植えにします。
植え付ける深さは、小ショウガなら深さ7cm、大ショウガなら10cmと品種によって変えます。

植え付け

大きな種ショウガは、あらかじめ40～60cmに分割し、切り口を乾かしておきます。
植え付けは、地温が15℃程度になり遅霜がない時期に植え付けます。植え付ける畝に深さ10cm程の溝を掘り、種ショウガを畝に対して縦向きになるように、30～60cm間隔に並べます。種ショウガの芽が上向きになるようにして、厚さ5～6cm土をかけます。

追肥・土寄せ

ショウガの本葉が2～3枚出て、草丈が15cm程になったら化成肥料を30～50g/m²を施し、中耕・土寄せをします。1回目の土寄せ後、気温が高くなる7～8月頃までに敷きわらをします。
1か月後に2回目の追肥(化成肥料30～50g/m²)を施し、中耕・土寄せをします。

病害虫防除

特に気を付けたい害虫は、ハスモンヨトウやアワノメイガの幼虫です。葉や新芽を食害するので、見つけ次第捕殺するか殺虫剤を散布します。病気では、ショウガは乾燥に弱いですが、逆に土壌の湿潤状態が続くと根茎腐敗病が発生する恐れがあるので注意が必要です。

収穫

- 葉ショウガ：植え付けから約3か月後(葉が7～8枚の頃)まだ根が小さく柔らかい状態で、株元が赤くなったら収穫の適期です。7月下旬頃に、根茎が小指程度の大きさになったら、葉が付いたまま収穫します。
- 根ショウガ(新ショウガ)：地上の茎葉が黄色くなり枯れ始めたら、十分根が肥大した状態のもの(茎の付け根が鮮やかな紅色)を収穫します。
- 低温にあたると傷むので、霜が降る前までに収穫しましょう。

保存法

新ショウガは、辛み成分を含みませんので、辛み成分を出すために保存します。その場合、土中に保存する方法などがあります。ショウガを保存する温度は13～15℃くらいで、湿度65%といわれています。この条件を作り出すために、土中保存をします。(農研機構 最適貯蔵条件より)

土中保存

20cmほど土を掘り下げて籾殻を敷き、その上にショウガ同士が触れ合わないよう横にして並べ、土を2cm以上被せます。これを繰り返し、最後に籾殻をかぶせたら、土を10cm以上盛り上げ、雨よけを兼ねてわらや落ち葉、枯草で覆っておきます。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。